

2025年3月期第1四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2024年8月8日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

全社

Q： 1Q実績は社内計画に対してどういう進捗であったか？事業別に教えてほしい。

A： 全社では、営業利益で計画より数億円下振れました。映像事業は、販売数量は予定どおりでしたが、円安効果や一部経費の2Q以降への繰延べもあり、営業利益は上振れました。精機事業は、FPD露光装置の販売は予定どおりでしたが、半導体装置はサービス需要の回復が想定を下回り、計画未達となりました。ヘルスケア事業は、足元で欧米を中心とした市況の停滞による顧客の投資抑制の影響を受け、営業利益は10億円程度計画を下回りました。コンポーネント事業は、1Qから2Q以降へのEUV関連コンポーネントの販売繰り延べやエンコーダでのFA市場の回復遅れの影響を受け、計画を下回りました。デジタルマニュファクチャリング事業は計画どおりの結果となりました。

Q： 下方修正した上期の業績見通しが、さらに下振れるリスクはあるか？また、下期業績見通しが下振れるリスクを教えてください。

A： 上期の業績予想を下方修正した3事業のうち、ヘルスケア事業は海外の金利高止まりなどによりお客様の投資が抑制されていますが、2Q以降分の受注は獲得できており、市況の急速な悪化がなければ、下期回復の蓋然性は相応に高いと見込んでいます。残る精機事業とコンポーネント事業は当初の想定より回復が遅れている半導体市況の影響を受けており、下期の半導体露光装置や半導体関連の光学コンポーネントのビジネス状況を注視していく必要があります。

2Q以降の業績見通しの為替前提は1ドル=145円、1ユーロ=155円としていますが、為替がより円高になるリスクもあるとみています。

Q： 中期経営計画最終年度である来期に計画している全社営業利益700億円を達成するためには精機事業とコンポーネント事業でかなりジャンプアップしないといけないという説明があったが、来期の見通しに何か変化はあるか？

A： 中期経営計画最終年度に計画している全社営業利益700億円達成は、半導体市況の回復次第とみています。精機事業の半導体露光装置やコンポーネントの市況が2022年度の水準に戻れば、映像事業等の営業利益は中期経営計画策定時より伸びているため、700億円の営業利益の

達成可能性は相応にある、とみています。精機事業では、半導体市況の回復によるサービス収益や光学コンポーネントの拡大、主要顧客以外への半導体露光装置の拡販がポイントと考えています。

精機事業

Q： FPD 製造装置市場の動向は明るくなっているようであるが、今後の見通しをどうみているか？来期に向けて良くなってきているのか？

A： 前期に比べ今期の販売台数は大幅に増加し、39 台を見込んでいます。パネル市場が回復してきており、FPD 露光装置販売も明るい兆しが見えてきました。6 世代・8 世代ともに、高解像・高生産性の付加価値の高い装置の引合いが増加しています。来期の販売台数は 20 台後半ぐらいになる見通しとこれまでご説明してきましたが、現時点では、来期以降は 30 台を超えるとみています。

Q： 半導体装置事業は、主要顧客とのビジネスも含めて来期以降回復が期待できるのか？

A： 特定のお客様の状況についてお答えするのは難しいですが、主要顧客以外への販売拡大が進んでおり、主要顧客とのビジネスの影響は大きくないと考えています。引き続き主要顧客の投資動向の変化や工場の稼働状況を注視していきます。

Q： 中国向け半導体露光装置ビジネスの状況について伺いたい。中国への半導体製造装置の販売が減速しているようであるが、中国での新規の露光装置の販売見通しを教えてください。

A： 中国向け露光装置のビジネスでは、新規のお客様や複数台の装置を購入いただけるお客様の獲得を目指しています。また ArF ドライや ArF 液浸露光装置に加えて、i 線の新製品も投入しており、多面的に展開していく方針です。

ヘルスケア

Q： ヘルスケア事業は、金利高止まりによる顧客の投資抑制がある中、なぜ、受注が獲得できているのか？2Q 以降の受注傾向はどのように推移するか？

A： 顧客の投資抑制により生物顕微鏡ビジネス市場は低調です。そうした環境下、当社は元々強かったアカデミア市場に加え、製薬企業などの民間市場の開拓を進め、創薬支援サービスでは高い評価をいただいています。特に民間市場向けのハイエンドの顕微鏡を中心としたソリューション提供については、比較的順調に受注を獲得しており、中期経営計画で掲げている民間市場のお客様との協業や創薬支援開拓などの戦略が奏功しています。

コンポーネント

Q： コンポーネント事業では 1Q 実績は営業赤字で、2Q 以降に利益が改善していく計画になっているが、製品群毎に見通しを教えてください。

A： EUV をはじめとする光学コンポーネントはリードタイムの長い製品が多く、市況が減速する局面では需要は急には落ちない反面、市況が回復する局面では、お客様の在庫が適正化されるまで需要の

回復が遅れる傾向があります。一方、光学部品は消耗品が多く、市況が回復して半導体露光装置の稼働が上がると比較的早く業績に寄与するとみています。

今後の営業利益の回復は、2Q に向かって光学部品が牽引し、また EUV 関連コンポーネントのお客様の受注も好調と伺っていますので、下期以降に光学コンポーネントが力強く回復していくと見込んでいます。

以上